名古屋市保健所
感染症対策･調査センターの活動（業務課）

（令和 3 年度）

（衛生研究所内に感染症対策・調査センターを併設）

名古屋市保健所 感染症対策・調査センター

発刊にあたって

感染症対策・調査センターは守山区下志段味のなごやサイエンスパークＡゾーンに移転して２年半が経過しました。当センターは衛生研究所業務課という名古屋市衛生研究所組織の一部であり、かつ名古屋市保健所の一端を担う感染症対策・調査センターという組織でもあります。この２つの組織の利点を生かし、感染症法関係を中心とした業務を行っており、①感染症対策事業、②感染症媒介昆虫等対策事業、③感染症及び衛生害虫等に関する普及啓発事業、を３本柱として実施しています。詳しくは本活動を見ていただければと思います。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）については、ウイルスの変異を繰り返しながら発生の波となり、新規感染者の増加をさせています。令和３年度はアルファ株の第４波、デルタ株の第５波、オミクロン株の第６波がありました。そして執筆の現在は、オミクロン株 BA.5 の第７波が終わり、次の第８波の入口になっているという状況です。当センターにおける新型コロナウイルス感染症への対応は、①患者移送業務、②患者移送車両の消毒業務を中心に担当しています。患者移送業務については、外部委託が進み、看護師同乗を必要とする限られたケースとなりましたが、外部委託の移送車両の消毒は当センターで実施しており、毎日、数多くの移送車両の消毒をしています。

令和３年度、愛知県での緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などに伴い、３本柱の１つである「感染症及び衛生害虫等に関する啓発事業」の出張講座は、感染拡大防止の観点から長期間中止となりました。お申込みいただいていた各施設の皆様には大変申し訳ございませんでした。

感染対策と社会経済活動の両立が求められ、全国旅行支援のスタートや、外国人の新規入国制限の見直しがなされている現在、今後も社会経済活動とのバランスをとりながら、感染拡大の防止に取り組んでいくことが不可欠であり、感染症に関する業務を通じて、市民の方々の健康を守り、一日でも早く安心して暮らせる社会になることを切に願っております。今後とも関係各位の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

令和４年 12 月

名古屋市保健所
感染症対策・調査センター所長
（衛 生 研 究 所 業 務 課 長）
内 藤 一 夫

目　　次

Ⅰ　概要

1　機構及び分担業務 …… 1

2　職員 …… 1

3　沿革 …… 2

4　施設と設備 …… 3

Ⅱ　事業結果（令和３年度）

1　はじめに …… 5

2　感染症対策事業 …… 6

(1) 感染症患者の移送、消毒 …… 6

(2) 健康調査及び疫学調査 …… 6

(3) 検体等の搬送 …… 7

(4) 浸水時の消毒等 …… 9

(5) 設備機器の維持管理 …… 9

3　感染症媒介昆虫等対策事業 …… 11

(1) 感染症を媒介する衛生害虫等の調査 …… 11

(2) 緊急駆除及び特定空家等に対する応急措置 …… 12

(3) 集約区保健センターへの技術的協力 …… 12

4　感染症及び衛生害虫等に関する普及啓発事業※1 …… 13

(1) 普及啓発活動 …… 13

(2) 普及啓発物品の配布 …… 15

(3) 普及啓発資材の整備 …… 15

(4) 広報活動 …… 15

Ⅲ　資料編（令和３年度）

1　学会派遣、研究発表及び講師派遣等 …… 17

(1) 学会派遣、研究発表、表彰 …… 17

(2) 講師派遣 …… 17

(3) 感染症合同訓練 …… 17

(4) 体験学習、学生実習等 …… 17

(5) 報道協力 …… 17

2　広報指導用資材一覧表 …… 18

3　フィールドレポート …… 21

(1) 蚊生息状況調査結果 …… 21

(2) 蚊越冬調査結果 …… 22

(3) マダニ生息状況調査結果 …… 23

(4) 誘引トラップによるスズメバチ生息状況調査結果 …… 24

4　調査研究結果 …… 27

(1) 蚊生息状況調査 …… 27

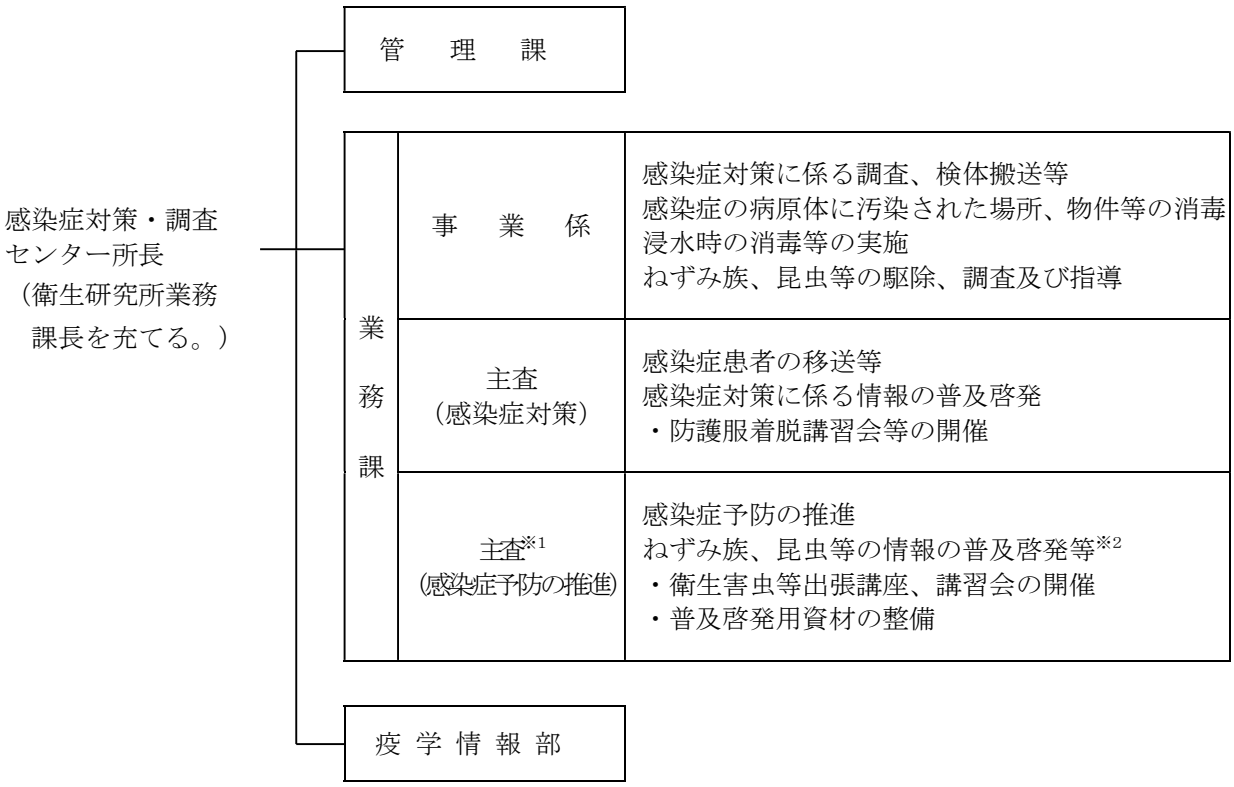
(2) マダニ生息状況調査 …… 30

(3) スズメバチ生息状況調査 …… 33

※1 衛生研究所業務課としての業務を含む。

Ⅰ　概要

1　機構及び分担業務



※1 感染症対策室主査が兼務

※2 衛生研究所業務課としての業務

2　職　員（業 務 課）

（令和 4 年 4 月 1 日現在）

補職名 ＼ 課・係・主査	技術職員							計
	課長	係長	主査	技師	看護師	運転士	業務技師	
業 務 課	1							1
事 業 係		1		4	1	1	7	14
主査（感染症対策）			1					1
主査（感染症予防の推進）			1					1
計	1	1	2	4	1	1	7	17

3 沿　革

昭和 15 年　5 月	防疫所業務開始（移送、消毒、医学的検査等）
昭和 20 年　3 月	庁舎消失
昭和 22 年　9 月	衛生班、全市で 40 ヶ班配置
昭和 23 年　4 月	庁舎復旧工事竣工
昭和 33 年 11 月	医学的検査等の業務を保健所へ移管
昭和 34 年　9 月	伊勢湾台風により庁舎倒壊
昭和 36 年　2 月	庁舎復旧工事竣工
昭和 39 年　7 月	衛生班活動ブロック体制開始
昭和 44 年　3 月	庁舎増築工事竣工
昭和 44 年　8 月	防疫センター発足、機構改革
昭和 44 年　9 月	移送、消毒、そ昆駆除業務開始
昭和 46 年　9 月	重症結核患者対策開始
昭和 47 年　7 月	タップミノー養殖開始
昭和 48 年　1 月	公共下水道内ネズミ駆除活動開始
昭和 51 年　3 月	感染症サーベイランス事業に参加
昭和 53 年 10 月	河川水等サーベイランス事業に着手
昭和 61 年　4 月	昆虫とのふれあい事業開始
昭和 61 年　8 月	ファーブル号導入
平成　2 年　7 月	高周波誘電加熱装置導入
平成　4 年　4 月	苦情相談窓口設置
	昆虫及び地域環境理解のための啓発事業の実施
平成　7 年 10 月	生活衛生センターの発足
	庁舎改築及び機構改革（タップミノー養殖廃止）
	普及啓発活動の充実（展示室の開設）
平成 11 年　4 月	計画駆除の廃止に伴う機構改革
	検疫通報に基づく健康調査の実施
	居住環境に起因するアレルギーに係る事業開始
平成 11 年　7 月	移送車 1 台更新
平成 15 年　3 月	高周波誘電加熱装置及び河川水等サーベイランス事業廃止
平成 16 年　3 月	移送車 1 台増車により感染症患者移送業務充実
平成 18 年　6 月	スズメバチ駆除業務一部民間移行
平成 18 年　8 月	ファーブル号更新
平成 20 年　4 月	スズメバチ駆除業務の完全民間移行（緊急時を除く）
平成 21 年　3 月	依頼消毒・依頼昆虫駆除業務廃止
平成 24 年　3 月	展示室「ムーシアム」閉館
平成 25 年　3 月	昆虫とのふれあい事業及び走る昆虫教室「ファーブル号」の廃止
平成 25 年　4 月	衛生害虫出張講座「おじゃま虫キャラバン」の開始
平成 26 年　4 月	機構改革に伴いアレルギー対策及び苦情相談業務の廃止
令和　元年　8 月	移送車 1 台更新
令和　2 年　2 月	新型コロナウイルス感染症の感染拡大による患者移送業務等の開始
令和　2 年　4 月	守山区大字下志段味字穴ケ洞地区へ移転
	衛生研究所内に感染症対策・調査センターを併設
令和　2 年　6 月	新型コロナウイルス感染症患者移送業務の一部委託化に伴い委託業者の患者移送車両の消毒業務開始

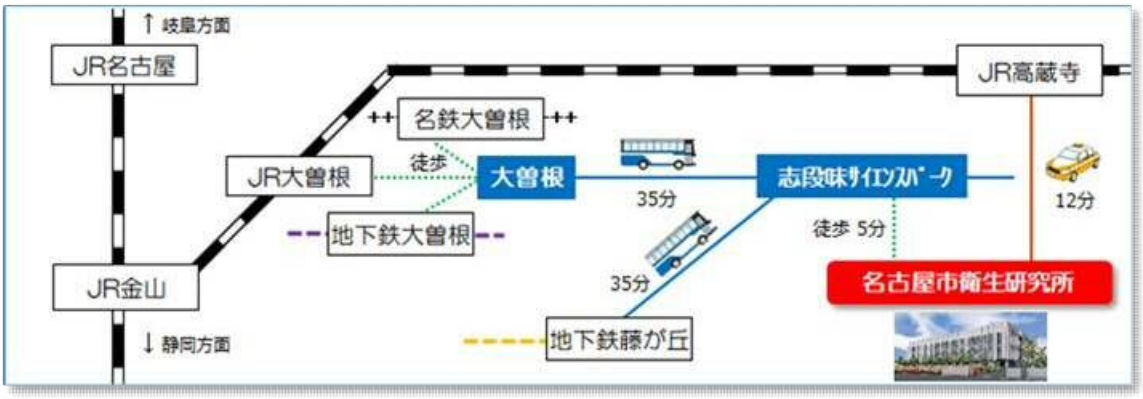
4　施設と設備

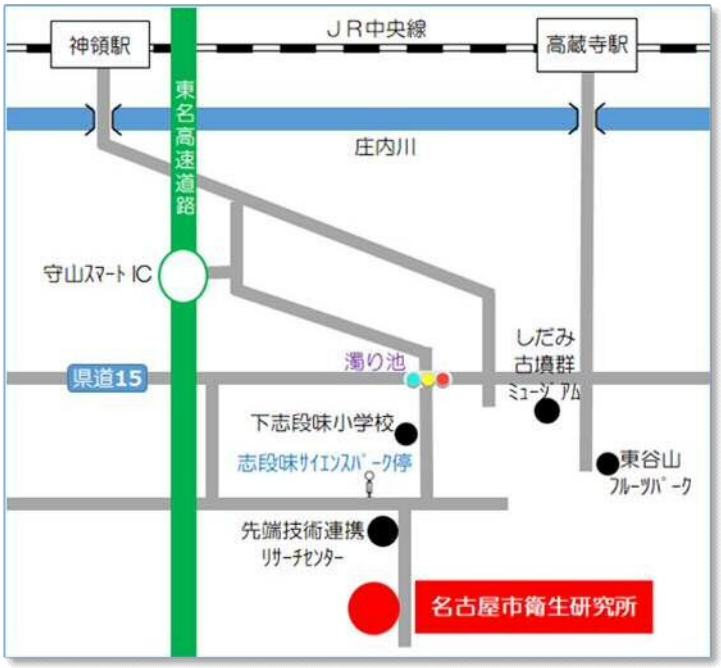
〈所在地〉

〒463-8585
名古屋市守山区桜坂四丁目 207 番地※
（※ 令和 4 年 11 月 26 日に住居表示変更）

衛生研究所内に感染症対策・調査センターを併設

〈交通案内〉





◆守山スマート IC より　　車で　約　5 分
◆JR 高蔵寺駅より　　車で　約 12 分
◆JR・名鉄・地下鉄大曽根駅より
　バス【ゆとりーとライン】志段味ｻｲｴﾝｽﾊﾟｰｸ経由
　中志段味行き乗車
　志段味ｻｲｴﾝｽﾊﾟｰｸ下車　徒歩約 5 分

◆地下鉄藤が丘駅より
　バス【藤丘 12 系統】四軒家経由
　東谷山ﾌﾙｰﾂﾊﾟｰｸ行き乗車
　志段味ｻｲｴﾝｽﾊﾟｰｸ下車　徒歩約 5 分

〈主な施設など〉

試験検査室・飼育室

試験検査室では調査で捕獲した検体の同定を行い、飼育室では普及啓発事業で使用する昆虫等の飼育を行っています。

試験検査室

飼育室

車両

患者移送車・・・・・・・・2 台　　薬剤散布車・・・・・・・・3 台　　その他車両・・・・・・・・6 台

患者移送車

薬剤散布車

その他

簡易式アイソレーター、手押し式動力噴霧器等

簡易式アイソレーター

手押し式動力噴霧器

Ⅱ　事業結果（令和３年度）

1　はじめに

感染症対策・調査センターの業務は、「感染症対策事業」、「感染症媒介昆虫等対策事業」及び「感染症及び衛生害虫等に関する普及啓発事業」を3本柱として各種の事業を展開し、市民の健康と暮らしを守り、健康的で快適な生活環境づくりを図っている。

令和3年度は、デルタ株等の変異株による新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、前年度と同様に長期間にわたり緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等が発令され、様々な社会活動が制約を受ける状況となった。本市業務においても、新型コロナウイルス感染症に係る業務継続計画が発動され、当センターでは衛生害虫等の調査や普及啓発事業の通常業務が相当期間中止することになった。また、検体搬送業務についても、保健センターの業務でHIV・性感染症検査が一部期間中止・縮小されたことによる影響を受けた。このような状況下、当センターでは前年度に引続き、新型コロナウイルス感染症の患者移送を担うとともに、委託患者移送車両の消毒等新型コロナウイルス感染症の業務対応に追われる一年となった（図1、表1）。

以下では令和3年度に行った事業結果を報告する。

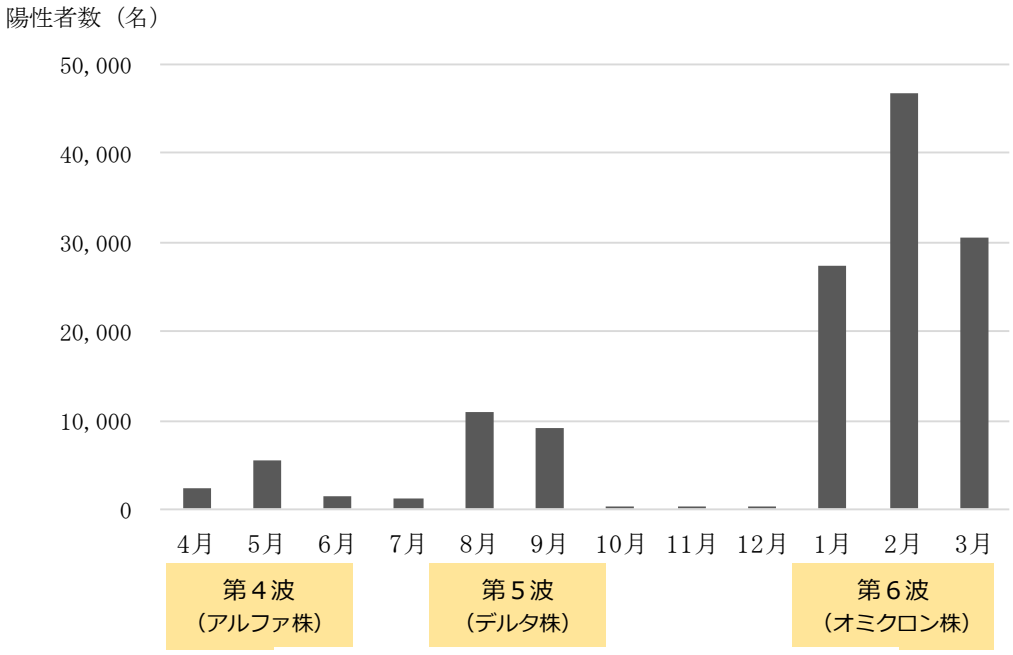


図1　令和3年度 名古屋市新規陽性者数（月別）

表1　新型コロナウイルス感染症における愛知県感染防止対策状況の推移　　令和3年度

期間	愛知県の感染防止対策状況	国内情勢
（R3年3月22日）　～　4月19日	警戒領域	
4月20日　～　5月11日	まん延防止等重点措置	
5月12日　～　6月20日	**緊急事態措置（緊急事態宣言）**	
6月21日　～　7月11日	まん延防止等重点措置	
7月12日　～　8月　7日	厳重警戒措置	東京オリンピック開催
8月　8日　～　8月26日	まん延防止等重点措置	（7/23～8/8）
8月27日　～　9月30日	**緊急事態措置（緊急事態宣言）**	
10月　1日　～　10月17日	厳重警戒措置	
10月18日　～　R4年1月14日	警戒領域	ワクチン3回目接種開始
1月15日　～　1月20日	厳重警戒	（12/1～）
1月21日　～　3月21日	まん延防止等重点措置	
3月22日　～　（3月31日）	厳重警戒	

2　感染症対策事業

(1) 感染症患者の移送、消毒

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）に基づく、令和 3 年度の感染症患者の移送は 308 件であり、令和 2 年度より 128 件減少した。患者の内訳は結核患者 103 人、新型コロナウイルス感染症の患者が 205 人（疑似症等を含む。）であった。新型コロナウイルス感染症患者の移送件数は、車椅子及びストレッチャーを使用した移送が可能な業者へ一部委託化したことにより、令和 2 年度より 140 件減少した。

また、「感染症法」に基づく消毒の実施はなかった。

その他、新型コロナウイルス感染症患者移送業務の委託業者の患者移送車両（タクシー）の消毒を 2,897 件実施した（表 2、表 3、表 4、表 5）。

感染症患者移送（結核）

患者移送車両（タクシー）の消毒

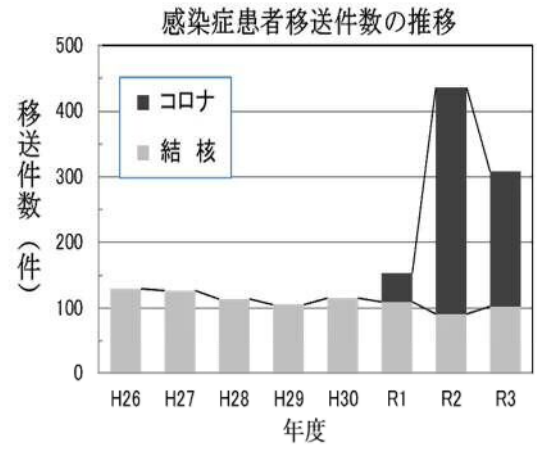
(2) 健康調査及び疫学調査

検疫所（空港検疫を含む。）からの菌検査通報に基づき健康調査を実施しているが、令和 3 年度はなかった。平成 18 年度以降、通報に基づく健康調査の実績はない（表 2）。

表 2　感染症患者移送及び消毒等　　**令和 3 年度**

感染症患者移送（人）

一類	二類						新型コロナウイルス感染症
	急性灰白髄炎	結核	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ（H5N1）（H7N9）	
－	－	103	－	－	－	－	205



感染症関係消毒　（件）	－
保健センターからの疫学調査依頼　（件）	－
検疫所からの通報に基づく健康調査　（件）	－

表 3　結核患者移送件数（依頼保健センター別）　　令和 3 年度

千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
6	4	9	8	14	4	6	4	2	7	6	10	4	6	4	9	103
(5)	(1)	(6)	(7)	(8)	(9)	(8)	(7)	(5)	(5)	(5)	(6)	(2)	(4)	(6)	(7)	(91)

（ ）は令和 2 年度の件数

表 4　新型コロナウイルス感染症患者移送件数（依頼保健センター他別）　　令和 3 年度

千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	本庁	計
11	5	8	5	3	6	6	4	6	20	9	4	20	6	10	2	80	205
(25)	(20)	(19)	(29)	(16)	(36)	(10)	(11)	(12)	(22)	(12)	(15)	(15)	(17)	(17)	(6)	(63)	(345)

（ ）は令和 2 年度の件数

表 5　患者移送業務委託車両消毒件数（月別）　　令和 3 年度

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
161	238	201	183	329	436	67	15	27	298	573	369	2,897
(−)	(−)	(36)	(97)	(161)	(129)	(135)	(151)	(193)	(163)	(126)	(116)	(1,307)

（ ）は令和 2 年度の件数

(3) 検体等の搬送

ア　結核菌分子疫学検査菌株の搬送

結核の感染経路追跡のため、分子疫学検査菌株を医療機関から衛生研究所へ定期的に搬送しており、令和 3 年度は 87 菌株を搬送した。

イ　HIV 抗体検査検体の搬送

保健センター所長からの依頼に基づき、HIV 抗体検査検体を保健センターから衛生研究所へ 998 検体搬送した（表 6）。

表 6　HIV 抗体検査検体搬送数（依頼保健センター別）　　令和 3 年度

千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
−	95	51	84	−	1	91	107	126	87	47	52	76	74	57	50	998
(1)	(13)	(−)	(10)	(−)	(−)	(−)	(11)	(15)	(−)	(18)	(16)	(13)	(19)	(16)	(−)	(132)

（ ）は令和 2 年度の件数

ウ　感染症発生動向調査検体の搬送

(ｱ) 病原体定点等検体の搬送

感染症の流行を未然に予知し、早期かつ適切な治療と効果的な予防対策を講じることを目的とする「名古屋市感染症予防対策事業実施要綱」に基づき、市内病原体定点（8 定点）から毎週 1 回、検体回収を行った。また、平成 28 年度以降は、インフルエンザを対象とする病原体定点（指定提出機関）からの検体回収も併せて行っている。

令和 3 年度の検体回収数は 172 件（指定提出機関からの検体回収数は 0 件）で、定点別では愛知医療センター名古屋第二病院が最も多かった。また、検体別では咽頭ぬぐい液が最も多く、次いで便、尿の順であった（表 7）。

表 7　病原体定点等検体搬送数　　**令和 3 年度**

		東部医療センター	西部医療センター	名古屋市立大学病院	中京病院	名古屋掖済会病院	愛知医療センター名古屋第二病院	くつなこどもクリニック	まじま眼科	合計
検体数	咽頭ぬぐい液	1 (−)	1 (−)	6 (−)	− (−)	− (−)	41 (−)	− (−)	−	49 (−)
	便	−	1	6	−	−	33	−	−	40
	尿	−	−	1	−	−	32	−	−	33
	髄　液	−	−	1	−	−	24	−	−	25
	結膜ぬぐい液	−	−	−	−	−	−	−	12	12
	血　液	−	1	4	−	−	5	−	−	10
	水　泡	−	−	1	−	−	1	−	−	2
	その他	−	−	−	−	−	1	−	−	1
	合　計	1	3	19	−	−	137	−	12	172

（ ）はインフルエンザ様疾患検体数の再掲

(ｲ) その他検体等の搬送

令和 3 年 4 月 1 日付で施行された「名古屋市検体等搬送実施規程」に基づき、医療機関等から提供を受けた検体及び菌株のうち保健センター所長から依頼のあった 165 検体（菌株含む。）を保健センター等から衛生研究所へ搬送した（表 8、表 9）。

表 8　その他検体等搬送数（依頼保健センター別）　　**令和 3 年度**

千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
2	−	8	10	8	19	23	5	5	17	22	27	−	4	−	15	165

表 9　その他検体等搬送数（感染症名※及び検体等種別）　令和 3 年度

		腸管出血性大腸菌感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	感染性胃腸炎	レジオネラ症	つつが虫病・SFTS・日本紅斑熱	その他	合計
検体等数	血　液	－	2	－	4	4	10	20
	髄　液	－	－	－	1	－	3	4
	咽頭ぬぐい液	－	－	－	－	1	3	4
	便	25	－	18	－	－	4	47
	尿	－	1	－	3	－	4	8
	菌　株	17	39	－	4	1	5	66
	その他	－	－	－	3	5	8	16
	合　計	42	42	18	15	11	37	165

※　感染症名ごとの検体等数には疑似症を含む。

エ　その他

保健センター所長から依頼があれば腸管出血性大腸菌のベロ毒素産生性検査検体を医療機関から衛生研究所へ搬送するが、令和 3 年度の搬送はなかった。検査が可能である民間検査機関の増加により、平成 20 年度以降の搬送実績はない。

(4) 浸水時の消毒等

「浸水対策実施要綱」に基づき、被災地域の公共的な場所について消毒及びねずみ族、昆虫等の駆除を行っているが、令和 3 年度は公共的な場所の消毒等の実施はなかった(表 10)。

(5) 設備機器の維持管理

動力噴霧器の設備点検を毎月 1 回実施し、感染症や浸水被害発生時の迅速な出動に備えた。

動力噴霧器の点検作業

表 10　浸水被害状況及び環境防疫活動状況　　令和 3 年度

	浸水被害状況（戸数）			消毒実施面積（m^2）	オルソ系乳剤使用量(L)	クレゾール石けん液使用量(L)	延活動班件数	延活動人数
	床上	床下	計					
千種	－	3	3	－	－	－	－	－
東	－	－	－	－	－	－	－	－
北	－	2	2	－	－	－	－	－
西	－	－	－	－	－	－	－	－
中村	－	－	－	－	－	－	－	－
中	－	－	－	－	－	－	－	－
昭和	1	－	1	－	－	－	－	－
瑞穂	－	2	2	－	－	－	－	－
熱田	－	1	1	－	－	－	－	－
中川	－	1	1	－	－	－	－	－
港	－	－	－	－	－	－	－	－
南	－	－	－	－	－	－	－	－
守山	－	－	－	－	－	－	－	－
緑	－	－	－	－	－	－	－	－
名東	－	－	－	－	－	－	－	－
天白	－	－	－	－	－	－	－	－
計	1	9	10	－	－	－	－	－

3　感染症媒介昆虫等対策事業

(1) 感染症を媒介する衛生害虫等の調査

新型コロナウイルス感染症対策業務への対応のため、以下の生息調査は当初の計画より調査地点の削減及び調査期間の短縮・中断等規模を縮小して実施した。

ア　蚊調査

以下のデングウイルス等保有状況調査を始めとして 130 件の調査を実施した（表 11）。

(ｱ) デングウイルス等保有状況調査

環境薬務課からの依頼に基づき、感染症媒介蚊のウイルス保有状況を把握するため、市内の公園等 6 地点において、5 月から 10 月にかけて月 2 回 CO_2 トラップを 24 時間設置し、捕集した蚊成虫を衛生研究所に搬入した。同じく、公園等 2 地点において 5 月から 10 月にかけて月 1 回 8 分間人囮法を実施し、捕集した蚊成虫を衛生研究所に搬入した。

(ｲ) 薬剤感受性調査

環境薬務課からの依頼に基づき、感染症媒介蚊幼虫の薬剤感受性を把握するため、市内 1 地点において、7 月から 9 月にかけて週 1 回オビトラップにより採集した卵を衛生研究所に搬入した。

(ｳ) 平常時における生息状況調査

市内の公園等 2 地点において、5 月から 11 月にかけて週 1 回 8 分間人囮法による生息状況調査を実施した。また、衛生研究所敷地内にて 4 月から 11 月にかけて週 1 回オビトラップによる産卵調査を行った（Ⅲ資料編 21 ページ「3 フィールドレポート（1）蚊生息状況調査結果」及び 27 ページ「4 調査研究結果（1）蚊の生息状況調査」）。

(ｴ) 蚊越冬調査

市内の公園等 4 地点において、12 月及び 1 月に月 2 回冬季の感染症媒介蚊の生息状況調査を実施した（Ⅲ資料編 22 ページ「3 フィールドレポート（2）蚊越冬調査結果」）。

CO_2 トラップ

クーラーバッグにドライアイスを入れて蚊成虫を誘引し吸引ファンで捕集する。

オビトラップ

水を入れた黒色の小容器に産卵場所となる厚紙を設置し卵を採集する。

8 分間人囮法

調査場所に 1 人が 8 分間立ち、吸血のため飛来する蚊成虫を捕虫網で捕獲する。

イ　マダニ生息状況調査

市内の公園等 5 地点において、5 月から 1 月にかけて旗ずり法による生息状況調査を 40 件実施した（表 11、Ⅲ資料編 23 ページ「3 フィールドレポート（3）マダニ生息状況調査結果」及び 30 ページ「4 調査研究結果（2）マダニ生息状況調査」）。

旗ずり法

ウ　スズメバチ生息状況調査

市内の公園等 5 地点において、5 月から 11 月にかけて誘引トラップによる生息状況調査を 81 件実施した。また、調査地点等において、営巣調査を 8 件実施した（表 11、Ⅲ資料編 24 ページ「3 フィールドレポート（4）誘引トラップによるスズメバチ生息状況調査結果」及び 33 ページ「4 調査研究結果（3）スズメバチ生息状況調査」）。

誘引トラップ

(2) 緊急駆除及び特定空家等に対する応急措置

保健センターからの依頼によるネズミ昆虫等業務実施要綱第8条に規定される緊急駆除及び名古屋市空家等対策の推進に関する条例第 10 条に規定される応急措置の実施はなかった（表 11）。

(3) 集約区保健センターへの技術的協力

保健センターからの依頼による技術的協力として、蚊媒介感染症の重点サーベイランス地点における媒介蚊の発生源調査を 4 件行った（表 11）。

また、デングウイルス等保有状況調査による蚊媒介感染症ウイルス検出時には、「デング熱・チクングニア熱・ジカウイルス感染症媒介蚊対策実施マニュアル」に基づき保健センターから媒介蚊対策の技術的協力を求められることが想定されるため、ウイルス検出地点周辺の成虫密度調査の初動対応訓練を鶴舞公園で 1 回実施した。

表 11　調査活動、緊急駆除及び応急措置、技術的協力件数　　**令和 3 年度**

	調査活動	緊急駆除	応急措置	技術的協力
ネズミ	－	－	－	－
ゴキブリ	－	－	－	－
ダニ(マダニを除く)	－	－	－	－
カ	130	－	－	4
スズメバチ	89	－	－	－
セアカゴケグモ	－	－	－	－
マダニ	40	－	－	－
ハエ	－	－	－	－
計	259	－	－	4

4　感染症及び衛生害虫等に関する普及啓発事業

(1) 普及啓発活動

ア　感染症対策に係る訓練

保健センター等からの依頼による防護服着脱訓練等はなかった。また、各機関と合同で行う新型インフルエンザ実地訓練も、新型コロナウイルス感染症対策業務への対応のため実施しなかった。

イ　衛生害虫等出張講座、講習会及び研修会等

各団体からの申込により、感染症の予防及び感染症を媒介する衛生害虫等に関する対策等の普及啓発活動として出張講座を 31 回行い、3,233 名の参加があった。令和 3 年度の衛生害虫等出張講座は、緊急事態宣言もしくはまん延防止等重点措置期間を除いた期間に、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底して、従来と内容を一部変更した上で実施した。幼稚園、保育園及び小学校では、パネルシアター及び紙芝居等を活用した講習並びに生きた虫及び標本等の展示を組み合わせ、対象年齢に応じた啓発を行った。また、科学館等では通常の講習や展示に加えて、セアカゴケグモの生息場所を示すジオラマ及び調査で採取したスズメバチの巣を展示し、来場者が体験できるよう工夫した。なお、令和 2 年度に引続き新型コロナウイルス感染症の拡大防止及び業務対応により出張講座を長期間中止したため、それ以前に比べ開催回数及び参加人数は大きく減少した(表 12)。

各団体からの依頼による講習会の開催はなかった。

新型コロナウイルス感染症の感染防止の知識を啓発するため、新型コロナウイルス感染症患者移送委託業者等を対象とした研修会を 15 回実施し、123 名の参加があった(表 12、13)。

その他、樹脂標本等の普及啓発資材貸出が 4 回あった(表 12)。

衛生害虫等出張講座

新型コロナウイルス感染症の感染防止研修会

ウ　公衆衛生セミナー

新型コロナウイルス感染症の拡大防止及び業務対応のため実施はなかった。

表 12　普及啓発活動月別実施回数と参加人数　　**令和 3 年度**

月	衛生害虫等出張講座		講習会		研修会※1		その他※2		計	
	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数
4 月	−	−	−	−	2	14	−	−	2	14
5 月	−	−	−	−	1	5	1	−	2	5
6 月	−	−	−	−	1	10	1	−	2	10
7 月	1	464	−	−	−	−	1	−	2	464
8 月	1	14	−	−	2	32	−	−	3	46
9 月	−	−	−	−	3	12	−	−	3	12
10 月	−	−	−	−	1	7	1	−	2	7
11 月	12	1,001	−	−	1	10	−	−	13	1,011
12 月	11	1,224	−	−	1	6	−	−	12	1,230
1 月	6	530	−	−	−	−	−	−	6	530
2 月	−	−	−	−	3	27	−	−	3	27
3 月	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
計	31 (69)	3,233 (6,613)	− (−)	− (−)	15 (4)	123 (13)	4 (1)	− (−)	50 (74)	3,356 (6,626)

（ ）は令和 2 年度の数

※1　研修会の内訳は、感染防止研修会（表 13）

※2　その他の内訳は、普及啓発資材貸出。資材貸出は回数のみ計上している。

表 13　感染防止研修会の実施日、対象及び参加人数　　**令和 3 年度**

実施日	対象	参加人数
4/5	患者移送業務委託業者	5
4/22	患者移送業務委託業者	9
5/12	患者移送業務委託業者	5
6/23	患者移送業務委託業者	10
8/10	患者移送業務委託業者	6
8/17	児童相談所職員	26
9/2	患者移送業務委託業者	6
9/3 (AM)	患者移送業務委託業者	2
9/3 (PM)	患者移送業務委託業者	4
10/26	患者移送業務委託業者	7
11/12	患者移送業務委託業者	10
12/17	患者移送業務委託業者	6
2/2	患者移送業務委託業者	6
2/4	患者移送業務委託業者	5
2/22	患者移送業務委託業者	16

(2) 普及啓発物品の配布

新型コロナウイルス感染症に対する業務継続計画が発動されたことにより、普及啓発活動の実施が制限され直接市民に普及啓発物品を配布する機会がなかったため、保健センターに、マスクケース等の感染症予防の普及啓発物品及び感染症対策・調査センターの業務紹介チラシを計 10,000 セット配布し、乳幼児健診及び母子健康手帳配布時等の機会に市民に感染予防啓発を呼びかけるよう依頼した。

マスクケース（展開図）

(3) 普及啓発資材の整備

普及啓発事業において間近に観察や体験ができるように、標本、パネルシアター、紙芝居、セアカゴケグモ啓発用のジオラマ等を改良した。また、普及啓発用資材を小学校等に対して貸出を行う等広く活用した。さらに、スズメバチをはじめ、市内に生息する昆虫等を採集・飼育し、生きた昆虫等の展示を組み合わせて啓発に利用する等工夫を図った。

樹脂標本

(4) 広報活動

名古屋市公式ウェブサイト内の衛生研究所業務課（感染症対策・調査センター）のページに、業務の紹介及び感染症媒介昆虫等の調査結果等を掲載した。さらに、スズメバチ危害防止の観点から、時期に応じた注意事項等の掲載も行った。その他、電子申請サービスを活用した衛生害虫等出張講座の申込受付を行った。

また、感染症対策室からの依頼を受け、既存パンフレット「腸管感染症～二次感染の予防について～」の内容をよりわかりやすく伝えるための啓発動画を作製した。

啓発動画撮影風景

Ⅲ　資 料 編

(令和３年度)

1　学会派遣、研究発表及び講師派遣等

(1) 学会派遣、研究発表、表彰

派　　遣　　先	内　　容	派 遣 者
第67回名古屋市公衆衛生研究発表会※1	令和元年度～2年度における新型コロナウイルス感染症患者の移送について（報告）	松岡　まり子
	令和元年度新型コロナウイルス感染症患者移送「初めての移送の現場から」	上村　朱美※2

※1　新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により誌上発表のみ

※2　令和3年4月1日付で東保健センターへ異動

(2) 講師派遣

派　　遣　　先	講　演　内　容	派 遣 者
R4/1/7 救急課程第31期救急隊員養成講義 「感染防止と消毒」 （名古屋市消防学校）	感染症の基礎知識・感染症法・予防方法・消毒法・手指衛生の重要性	松岡　まり子

(3) 感染症合同訓練

実施なし。

(4) 体験学習、学生実習等

実施なし。

(5) 報道協力

取材日	報　道　機　関	報　　道　　内　　容
6/1	NHK名古屋	6月からの害虫対策について
11/1	東海テレビ	マダニについて

2　広報指導用資材一覧表　　令和３年度

パ　ネ　ル
〈ネズミ〉
ネズミ駆除
ネズミのふえ方
毒エサの作り方
ネズミと人の知恵くらべ
〈ゴキブリ〉
たくましい生活力
〈ダニ〉
ダニはどこにいるだに？
ダニはここにいるだに！
〈ハチ〉
ハチに刺されないために
コガタスズメバチの生活史
スズメバチの営巣場所
もしハチに刺されたら
クマバチの巣をさがそう
スズメバチを巡る食物連鎖
ヤブガラシに集まるハチ
ハチの巣はどこにあるっ巣？
ハチの巣はここにあるっ巣！
〈ケムシ〉
りんぷんってなぁに？？
校庭の危険な虫～有毒ケムシ～
〈カ〉
カはどれも同じなの（ヤブカ・イエカ比較）
カはどうやって育つの
カはどこで生まれるの
〈その他の衛生害虫〉
セアカゴケグモ
アルゼンチンアリ
トコジラミ（南京虫）
〈昆虫一般〉
アゲハチョウのなかま
モンシロチョウのふしぎ
ツマグロヒョウモンって知ってる？
海を渡るチョウ　アサギマダラ
名古屋のセミ調べ
朽ち木の中から冬の虫さがし
成虫で冬を越すバッタ
バッタをさがそう
赤とんぼの名前調べ
鳴く虫の声を聞く
虫こぶ入門
樹液に集まる虫
テントウムシの見つけ方
食べる食べられる虫たちのきびしい生活
名古屋のセミ
セミのぬけがら調査結果@千種公園
クマゼミって増えてるの？
セミのオスとメス　どこがちがう？
セミのぬけがら見分け方

書　籍
生活と環境（2015 年～）
公衆衛生（2015 年～）
昆虫と自然（2016 年 7 月～）
原色ペストコントロール図説　第Ⅰ集
原色ペストコントロール図説　第Ⅱ集
原色ペストコントロール図説　第Ⅲ集
原色ペストコントロール図説　第Ⅳ集
原色ペストコントロール図説　第Ⅴ集
原色日本昆虫生態図鑑　Ⅰ　カミキリ編
原色日本昆虫生態図鑑　Ⅱ　トンボ編
原色樹木病害虫図鑑
原色日本クモ類図鑑
原色日本甲虫図鑑　Ⅰ～Ⅳ
原色日本蛾類幼虫図鑑　上・下
原色日本昆虫図鑑　上・下
原色日本蝶類生態図鑑　Ⅰ～Ⅳ
日本原色カメムシ図鑑
日本原色アブラムシ図鑑
日本産ゴキブリ類
原色昆虫大図鑑　Ⅰ～Ⅲ
学研生物図鑑　昆虫　Ⅰ～Ⅲ
日本蜂類生態図鑑
日本ダニ類図鑑
ダニ類
原色図鑑　野外の毒虫と不快な虫
原色図鑑　衛生害虫と衣食住の害虫
日本産水生昆虫検索図説
日本産トンボ幼虫・成虫検索図説
びっくり害虫図鑑
家屋害虫事典
日本のクモ
昆虫実験法　材料・実習編
昆虫実験法　研究編
日本産幼虫図鑑
蛾蝶記

ダニと新興再興感染症
ズーノーシスハンドブック
アウトブレイクの危機管理
消毒薬テキスト新版
以上始め　約500冊

ＣＤ－ＲＯＭ

原色ペストコントロール図説　第Ⅰ集
原色ペストコントロール図説　第Ⅱ集
原色ペストコントロール図説　第Ⅲ集
害虫スライド集

標　本　等

〈標本箱〉
もりにいるおじゃまむし
だいどころにいるおじゃまむし
いえのちかくのおじゃまむし
おへやにいるおじゃまむし
セアカゴケグモにきをつけて
アシナガバチとスズメバチ
ハチの巣のアパートの住民たち
巣の中を見てみよう２
名古屋のスズメバチ２
テントウムシの仲間
形と役目はさまざま　昆虫の体の仕組み
形と役目はさまざま　昆虫の口
形と役目はさまざま　昆虫の翅
形と役目はさまざま　昆虫の脚
水生昆虫の一生
池にすむ虫たち
水辺の虫探し
小さな池にも…
大きな池をのぞいたら
ヤママユのなかま
タンポポにやってくる虫たち
ヤブガラシに集まる昆虫
チョウのパレード
チョウの来る校庭
ツマグロヒョウモン
チョウと食草１
チョウと食草２
チョウと食草３
森のレストラン
森のレストラン
樹液のレストランの昼と夜
樹液のレストラン（昼）
樹液のレストラン（夜）
夏の思い出１
夏の思い出２
夏の虫カレンダー
セミの一生
セミの抜け殻の絵とき検索
セミの世界一と日本一
トンボの抜け殻調べ
大きなトンボと小さなトンボ
アカトンボの仲間
１７年ゼミ
ちいさい秋みつけた１
ちいさい秋みつけた２
秋の昆虫
秋のチョウ
鳴く虫の声を聞きに行こう！
バッタのオリンピック
むしの冬越
どうしているのかな？１
どうしているのかな？２
かくれんぼ１
かくれんぼ２
屋外の害虫
家庭で見つかる虫たち
台所のおじゃま虫　ゴキブリ
屋内の害虫
スズメバチの仲間
アシナガバチとその巣
千種区のチョウ１
千種区のチョウ２
千種区のトンボ１
千種区のトンボ２
東区のチョウ
東区のトンボ
北区のチョウ
北区のトンボ
西区のチョウ
西区のトンボ
中村区のチョウ
中村区のトンボ
中区のチョウ
中区のトンボ
昭和区のチョウ
昭和区のトンボ
瑞穂区のチョウ
瑞穂区のトンボ
熱田区のチョウ
熱田区のトンボ

中川区のチョウ	ドクチョウの仲間
中川区のトンボ	トリバネチョウの仲間２
港区のチョウ	ワモンチョウの仲間、ジャノメチョウの仲間
港区のトンボ	地球温暖化と昆虫
南区のチョウ	名古屋市版レッドデータブックの昆虫１
南区のトンボ	名古屋市版レッドデータブックの昆虫２
守山区のチョウ１	外国のチョウ２
守山区のチョウ２	〈実物〉
守山区のトンボ１	キイロスズメバチの巣
守山区のトンボ２	コガタスズメバチの巣
緑区のチョウ１	モンスズメバチの巣
緑区のチョウ２	オオスズメバチの巣
緑区のトンボ１	〈樹脂標本〉
緑区のトンボ２	トンボ目
名東区のチョウ１	チョウ目
名東区のチョウ２	ハチ目
名東区のトンボ１	バッタ目
名東区のトンボ２	カマキリ目
天白区のチョウ１	ゴキブリ目
天白区のチョウ２	コウチュウ目
天白区のトンボ１	カメムシ目
天白区のトンボ２	以上始め 樹脂標本 約 142 種、239 個
アゲハチョウ科	その他
シロチョウ、シジミチョウ科	セアカゴケグモのジオラマ
マダラ、テング、タテハチョウ科	
ジャノメ、セセリチョウ科	
名古屋のチョウ１	
名古屋のチョウ２	
名古屋から姿を消したチョウ	
名古屋のトンボ	
イト、アオイト、モノサシトンボ科１	
エゾトンボ、トンボ科１	
カワ、サナエトンボ科	
ヤンマ、オニヤンマ科	
トンボ科２	
池や小川で見られるトンボ	
水辺の親子	
歌っているのはだれ？	
あっ、飛んだ	
春になれば	
虫の冬越し	
街で見かけるセミと抜け殻	
カブトムシの１年	
アゲハチョウの仲間１	
キシタアゲハの仲間１	
タテハチョウの仲間２	

3　フィールドレポート

表規約	計数のない場合	－
	調査中止の場合	・

(1) 蚊生息状況調査結果

表1　市内2地点※1（週1回各地点4か所）における8分間人囮法調査結果※2（捕集数計）

種別＼調査日		4月					5月				6月			
		1日	8日	15日	22日	28日	6日 7日	13日	20日	28日	3日	10日	17日	24日
ヒトスジシマカ	♂	・	・	・	・	・	－	6	12	2	7	6	16	18
	♀	・	・	・	・	・	11	24	16	27	6	13	34	56
アカイエカ群	♂	・	・	・	・	・	－	－	－	－	－	－	1	－
	♀	・	・	・	・	・	－	1	－	－	－	－	－	－
その他	♂	・	・	・	・	・	－	－	－	－	－	－	－	－
	♀	・	・	・	・	・	－	－	－	－	－	－	－	－

種別＼調査日		7月					8月				9月				
		1日 2日	9日	15日	21日	29日	5日	12日	20日	26日	2日	9日	16日	22日	30日
ヒトスジシマカ	♂	65	46	39	47	42	1	32	15	21	・	・	・	・	・
	♀	93	64	90	87	120	28	120	96	33	・	・	・	・	・
アカイエカ群	♂	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・	・	・	・	・
	♀	1	－	－	－	1	－	－	－	－	・	・	・	・	・
その他	♂	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・	・	・	・	・
	♀	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・	・	・	・	・

種別＼調査日		10月				11月				計
		7日	14日	21日	28日	4日	11日	18日	25日	
ヒトスジシマカ	♂	60	60	3	－	－	1	－	－	499
	♀	41	149	20	19	7	35	19	3	1,211
アカイエカ群	♂	－	－	2	－	－	1	－	－	4
	♀	1	－	1	－	1	1	－	－	7
その他	♂	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	♀	－	－	－	－	－	－	－	－	－

※1 徳川園（東区）、瑞穂公園（瑞穂区）　　※2　新型コロナウイルス感染症対策業務への対応のため、4月及び9月の調査は中止

表２　市内１地点※3におけるオビトラップ（5 個）による産卵調査結果※4

回収日	4 月					5 月				6 月			
	2 日	9 日	16 日	23 日	30 日	7 日	14 日	21 日	28 日	4 日	11 日	18 日	25 日
卵	－	－	－	3	18	－	32	－	76	70	68	－	－
ふ化殻	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
幼虫	－	－	－	－	－	7	－	2	－	－	5	17	1

回収日	7 月					8 月				9 月			
	2 日	9 日	16 日	21 日	30 日	6 日	13 日	20 日	27 日	3 日	10 日	17 日	24 日
卵	10	11	13	36	39	30	78	5	38	225	139	114	27
ふ化殻	4	1	4	－	19	5	5	－	－	38	2	1	－
幼虫	88	14	40	20	286	53	116	1	37	151	21	－	10

回収日	10 月					11 月				計
	1 日	8 日	15 日	22 日	29 日	5 日	12 日	19 日	26 日	
卵	81	76	58	1	－	－	－	－	－	1,248
ふ化殻	－	－	1	－	－	－	－	－	－	81
幼虫	1	－	26	－	－	－	－	－	－	896

※3 衛生研究所（守山区）

※4 トラップ破損により、10/22 トラップ１個、11/5 トラップ２個（幼虫のみ）、11/12 トラップ１個（卵、ふ化殻）未集計

(2) 蚊越冬調査結果

表　市内４地点※1（月２回各地点公衆トイレ 3～5 か所）における目視による調査結果※2（捕集数計）

種別＼調査日		12 月		1 月		2 月		3 月		計
		上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	
ヒトスジシマカ	♂	－	－	－	－	・	・	・	・	－
	♀	－	－	－	－	・	・	・	・	－
アカイエカ群	♂	1	－	－	－	・	・	・	・	1
	♀	1	3	1	－	・	・	・	・	5
その他	♂	－	－	－	－	・	・	・	・	－
	♀	－	－	－	－	・	・	・	・	－

※1 名城公園（北区）、中村公園（中村区）、白川公園（中区）、小幡緑地西園（守山区）

※2 新型コロナウイルス感染症対策業務への対応のため、２月及び３月の調査は中止

(3) マダニ生息状況調査結果

表　市内5地点（月1回実施）における30分間旗ずり法による調査結果※1

種類＼調査月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
アカコッコマダニ	・	10	－	－	－	・	－	3	132	243	・	・	388
キチマダニ	・	6	5	386	17	・	21	35	25	11	・	・	506
タカサゴチマダニ	・	2	－	－	1	・	－	1	2	－	・	・	6
ヤマアラシチマダニ	・	4	3	4	4	・	1	－	－	－	・	・	16
フタトゲチマダニ	・	1	1	12	－	・	2	－	－	－	・	・	16
オオトゲチマダニ	・	－	－	－	－	・	－	－	2	1	・	・	3
タカサゴキララマダニ	・	－	1	－	－	・	－	－	－	－	・	・	1
計	・	23	10	402	22	・	24	39	161	255	・	・	936

※1　新型コロナウイルス感染症対策業務への対応のため、4月、9月、2月及び3月の調査は中止

(4) 誘引トラップによるスズメバチ生息状況調査結果※1

表1　公園定点生息状況調査結果※2

	種類※3	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
千種区	コガタ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	ヒメ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	モン	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	オオ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	その他	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	計	・	・	・	・	・	・	・	・	・
北区	コガタ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	ヒメ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	モン	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	オオ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	その他	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	計	・	・	・	・	・	・	・	・	・
西区	コガタ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	ヒメ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	モン	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	オオ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	その他	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	計	・	・	・	・	・	・	・	・	・
中村区	コガタ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	ヒメ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	モン	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	オオ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	その他	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	計	・	・	・	・	・	・	・	・	・
中区	コガタ	・	5	3	23	15	8	32	14	100
	ヒメ	・	−	1	−	−	−	−	−	1
	モン	・	−	−	1	1	−	−	−	2
	オオ	・	1	2	−	−	−	2	3	8
	その他	・	−	3	5	1	1	−	−	10
	計	・	6	9	29	17	9	34	17	121
昭和区	コガタ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	ヒメ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	モン	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	オオ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	その他	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	計	・	・	・	・	・	・	・	・	・
熱田区	コガタ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	ヒメ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	モン	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	オオ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	その他	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	計	・	・	・	・	・	・	・	・	・
中川区	コガタ	・	2	5	17	29	7	9	8	77
	ヒメ	・	−	3	−	1	1	2	−	7
	モン	・	−	−	−	−	−	1	−	1
	オオ	・	4	1	−	2	−	11	2	20
	その他	・	−	−	1	−	−	−	−	1
	計	・	6	9	18	32	8	23	10	106

	種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
港区	コガタ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	ヒメ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	モン	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	オオ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	その他	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	計	・	・	・	・	・	・	・	・	・
南区	コガタ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	ヒメ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	モン	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	オオ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	その他	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	計	・	・	・	・	・	・	・	・	・
守山区	コガタ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	ヒメ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	モン	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	オオ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	その他	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	計	・	・	・	・	・	・	・	・	・
緑区	コガタ	・	6	21	24	58	8	13	9	139
	ヒメ	・	・	1	3	48	6	8	－	66
	モン	・	16	7	52	208	40	12	－	335
	オオ	・	20	5	9	115	27	35	3	214
	その他	・	・	3	4	1	－	－	1	9
	計	・	42	37	92	430	81	68	13	763
名東区	コガタ	・	2	32	10	58	10	16	5	133
	ヒメ	・	－	1	1	17	5	3	－	27
	モン	・	1	9	40	297	59	17	－	423
	オオ	・	2	8	8	186	39	42	24	309
	その他	・	－	9	－	6	2	－	2	19
	計	・	5	59	59	564	115	78	31	911
天白区	コガタ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	ヒメ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	モン	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	オオ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	その他	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	計	・	・	・	・	・	・	・	・	・
計	コガタ	・	15	61	74	160	33	70	36	449
	ヒメ	・	－	6	4	66	12	13	－	101
	モン	・	17	16	93	506	99	30	－	761
	オオ	・	27	16	17	303	66	90	32	551
	その他	・	－	15	10	8	3	－	3	39
	計	・	59	114	198	1,043	213	203	71	1,901

※1　誘引液を入れたファネルトラップを2個設置し毎週生息状況を調査

※2　各区（東区及び瑞穂区を除く。）1ヶ所定点公園を選定
新型コロナウイルス感染症対策業務への対応のため、調査地点・期間を縮小（5月第3週から4区で開始、9月第2週から10月第1週まで中止）して実施

※3　コガタはコガタスズメバチ、ヒメはヒメスズメバチ、モンはモンスズメバチ、オオはオオスズメバチ。その他の内訳は、キイロスズメバチ、チャイロスズメバチ及びクロスズメバチ

表２　継続定点生息状況調査結果※4

	種類※6	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
衛生研究所※5	コガタ	・	9	14	19	38	5	1	－	86
	ヒメ	・	－	1	1	20	20	1	－	43
	モン	・	－	1	4	23	20	4	－	52
	オオ	・	3	1	19	95	154	47	1	320
	その他	・	3	8	－	6	1	7	9	34
	計	・	15	25	43	182	200	60	10	535
動物愛護センター	コガタ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	ヒメ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	モン	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	オオ	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	その他	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	計	・	・	・	・	・	・	・	・	・

※4　平成６年度より２ヶ所地点を選定し同一地点で継続調査
　新型コロナウイルス感染症対策業務への対応のため、調査地点・期間を縮小（5月第3週から衛生研究所のみで開始）して実施
※5　令和２年度より生活衛生センターから衛生研究所に地点変更
※6　コガタはコガタスズメバチ、ヒメはヒメスズメバチ、モンはモンスズメバチ、オオはオオスズメバチ。
その他の内訳は、キイロスズメバチ及びクロスズメバチ

4　調査研究結果

(1) 蚊生息状況調査

ア　目的

地球温暖化による都市の亜熱帯化及び都市部における観光等による海外との往来増加は、デング熱等の蚊媒介感染症の国内流行の発生リスクの増大をはらんでいる。そのため、生息する媒介蚊の種類及び密度を把握することは蚊媒介感染症対策に重要である。

名古屋市においては、蚊媒介感染症発生リスクの評価等により市内の調査地点を選定し、蚊の生息調査とウイルス検査を実施しているところだが、本調査では、さらに市内における蚊の生息状況を把握するため、別の調査地点を選定し調査期間を延長して捕集調査を実施した。

イ　調査方法

(ｱ) 8 分間人囮法（図 1）

調査員が各調査ポイントで 8 分間立っている間に飛来する成虫蚊を捕集し計数した。

(ｲ) オビトラップ（図 2）

調査地点にオビトラップ（5 個）を設置し、1 週間後に回収された蚊の卵及び幼虫を計数した。

図 1　8 分間人囮法

図 2　オビトラップ

ウ　調査地点及び調査期間

(ｱ) 8 分間人囮法

市内の公園等 2 地点を調査地点とし、各地点につき 4 か所の調査するポイントを定めた。

令和 3 年 4 月から 11 月を調査期間とし、週 1 回午前の時間帯に調査を実施した（雨天の場合は延期）。ただし、新型コロナウイルス感染症の業務対応につき、4 月及び 9 月は調査を行うことができなかったためデータは欠測とした。

(ｲ) オビトラップ

令和 3 年 4 月から 11 月を調査期間とし、衛生研究所（名古屋市守山区）の敷地内で調査を実施した。

エ　結果

(ｱ) 8 分間人囮法

調査期間中に捕集された成虫蚊は、吸血飛来したヒトスジシマカのメスと、メスの近くを飛んでいたオスがほとんどで、メスが 1,210 匹、オスが 499 匹であった。その他にはアカイエカ群のメスが 6 匹、オスが 5 匹捕集されたのみであった。

週ごとのヒトスジシマカのメスの 1 ポイントあたりの平均捕集数を図 3 に示した。調査を開始した 5 月第 1 週から捕集され、調査期間の終わりの 11 月第 4 週までヒトスジシマカの成虫蚊の生息が確認された。また、6 月の第 3 週頃から捕集数の増加傾向がみられ、増減をしつつ、10 月の第 2 週に平均捕集数が最大となった（1 ポイントあたり 18.6 匹）。その後は、多少増減はあるものの著しく捕集数は減少した。

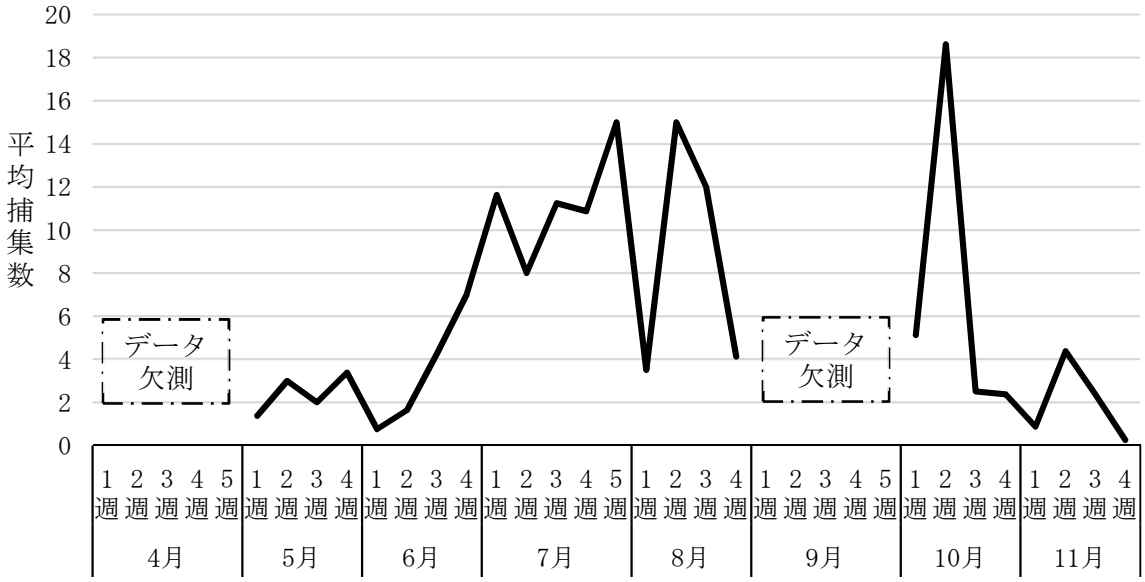


図３　人囮法によるヒトスジシマカ(メス)の捕集数(週別)

平均捕集数は、1ポイントあたりの捕集数を示す。
4月および9月は、新型コロナウイルス感染症の業務対応につき調査を中止した。

(ｲ) オビトラップ

オビトラップにより捕集された蚊の卵と幼虫の1トラップあたりの平均捕集数（週別）を図4に示した。

4月の第4週から卵が捕集され始め、5月の第1週には幼虫が捕集された。10月の第2週まで幼虫は見られ、卵は10月の第3週まで捕集された。

7月の第5週に幼虫の捕集数が最も多く（1トラップあたり57.2匹)、卵の捕集数は9月の第1週に最大になった（1トラップあたり45.0個)。

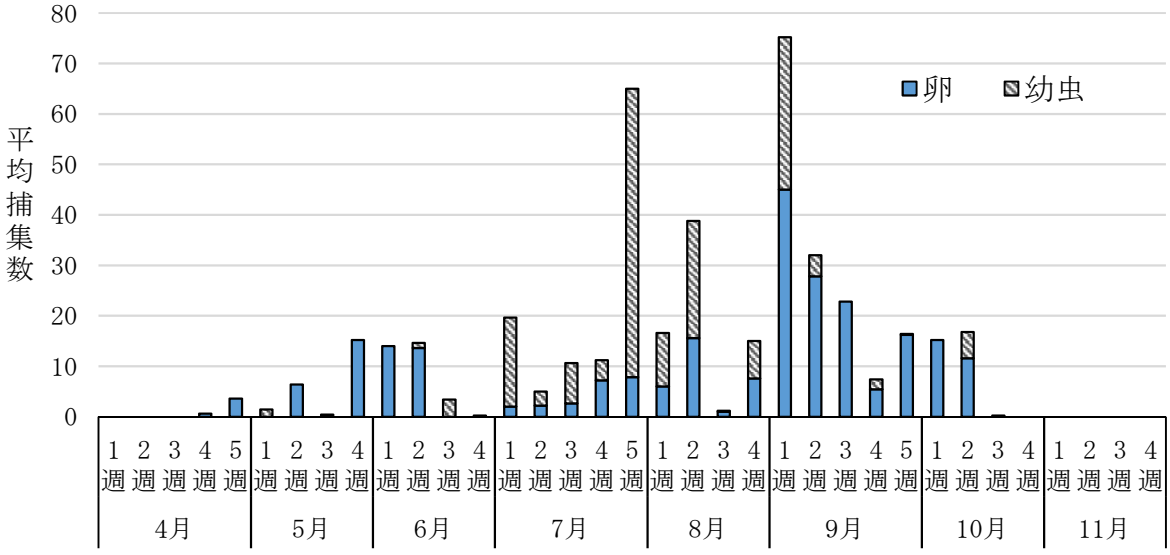


図４　オビトラップによる卵と幼虫の捕集数（週別）

平均捕集数は、1トラップあたりの捕集数を示す。

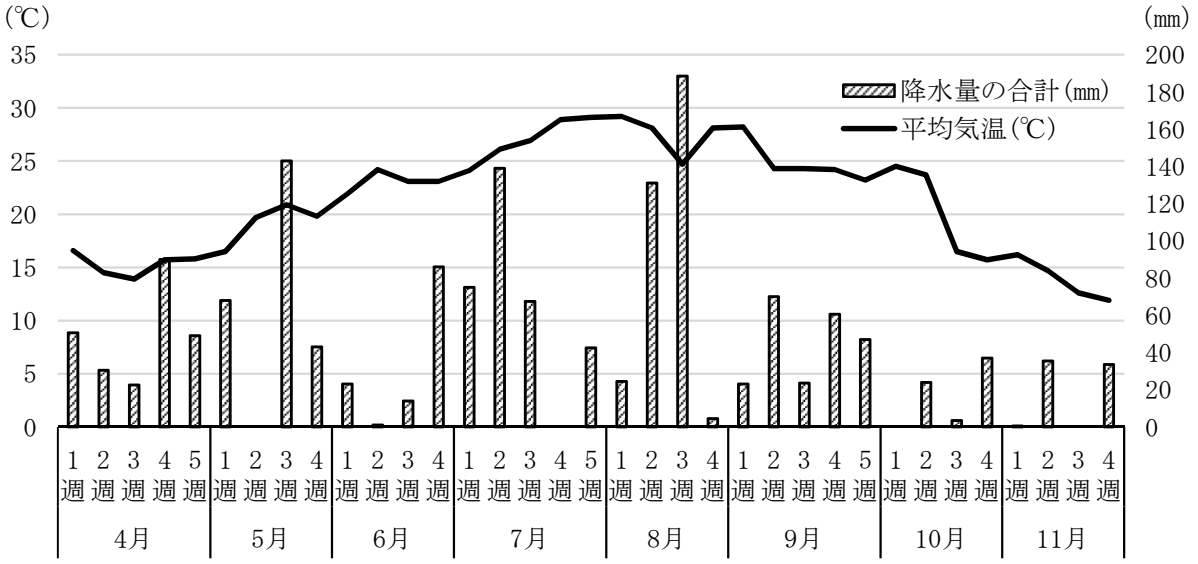


図５　令和３年度の名古屋の平均気温および降水量（週別）（参考）

気象庁観測データより引用した。
週ごとの集計期間はオビトラップの調査期間に合わせてデータを作成した。

オ　考察

蚊は水のある所に卵を産みつけ、幼虫のボウフラは水中で育つ。ヒトスジシマカは、樹洞や岩の窪みなどの自然の器や屋外に置いてある花立てや水がめなどの人工容器に雨で水が溜まるとそこに産卵する習性があるので、降水量が増えると産卵場所（発生源）が増えることにより成虫蚊の発生も増える可能性が考えられる。参考までに令和３年度の名古屋の平均気温及び降水量（週別）を図５に示す。人囮法による成虫蚊の捕集数は６月第４週より顕著に増えているが、６月第４週の降水量は前の週と比べて増加しており、降水量増加が成虫蚊発生増加に寄与した可能性がある。しかし、その後の降雨量が増加した週において、成虫蚊の減少も認められた（７月第２週、８月第３週）。これらの週ではオビトラップの捕集数も減少しており、多量の降雨により卵や幼虫が流されたことや、飛翔困難で吸血・産卵行動が抑制されたため、成虫蚊が減少した可能性も考えられる。

10 月第２週に成虫蚊が多く捕集されている。このとき、捕集された成虫蚊は時期的に越冬卵を産卵するために積極的に吸血飛来したと考えられるが、これ以降成虫蚊、卵及び幼虫ともに捕集数が著しく減少している。このとき、10 月の第２週から第３週にかけて平均気温が大きく下がっており（23.7℃→16.5℃）、この気温低下が蚊の吸血・産卵行動に大きな影響を与えた可能性がある。今後、名古屋市内の気温がさらに上昇し、蚊の吸血・産卵する期間が長くなるならば、蚊媒介感染症の発生リスクに備える期間がより延長する可能性がある。

令和元年末より新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延した影響により、年々増えていた訪日外国人客が激減した。令和２年に予定されていた東京オリンピック、パラリンピックは１年延期して開催され、本調査を実施した令和３年度には、多数の国や地域から多くの選手や大会関係者が訪日したが、幸いなことに蚊媒介感染症の国内感染は無かった。本市は愛知県と共催で令和８年にアジア競技大会を開催予定であり、蚊媒介感染症が蔓延している東アジアや東南アジアからも多数の選手や大会関係者が訪日する見込みである。今後この調査結果を資とし、名古屋市内の競技会場や選手村などの地域を対象としたモニタリングを実施し、蚊媒介感染症対策の一助としていきたい。

(2) マダニ生息状況調査

ア　目的

マダニ類は感染症法上の四類感染症である日本紅斑熱（JSF）や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）を媒介するとされており、本市ではマダニ類の生息調査を平成 25 年から毎年実施している。令和 2 年では全国で JSF は 420 名、SFTS は 78 名の患者が発生しており、本市においても、ベクターレベル監視のためにマダニ類の生息状況を毎年度把握していく必要があり、今年度も本調査を実施した。

イ　調査地点及び調査期間

市内の公園等 5 地点（以下、地点 A～E とする。）において調査を実施した。なお、地点 A～D は継続的に調査を実施しているが、地点 E については今年度から調査を開始した。

調査期間は、令和 3 年 4 月から令和 4 年 3 月までとし、1 地点につき、毎月 1 回調査を行う計画であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による業務継続計画発動のため、4 月、9 月、2 月及び 3 月の調査は休止した。

ウ　調査方法

白い布を植生や落ち葉等の上を引きずる旗ずり法を用いて、調査員 2 名で 30 分間行った（図 1）。捕獲したマダニ類は冷凍後、顕微鏡下で形態学的手法により種類及び発育ステージ（成虫、若虫、幼虫）の同定を行った。なお、調査を行うにあたり、手袋（軍手）や長靴の着用、袖口や足下へ虫除けスプレーを塗布する等の刺咬被害防止対策を実施した。

図 1　旗ずり法

エ　調査結果及び考察

(ｱ) 調査地点ごとのマダニ捕獲数及び種類について

令和 3 年 5 月から令和 4 年 1 月までの計 40 回の調査で 3 属 7 種の計 936 頭捕獲した。発育ステージの内訳は、成虫 90 頭、若虫 86 頭、幼虫 760 頭であった。捕獲マダニ種の割合はキチマダニが最も多く、次にアカコッコマダニ、同数でフタトゲチマダニ及びヤマアラシチマダニの順であった。調査地点別でマダニ種の割合を見ると、調査地点ごとに違いが見られ、優占種はキチマダニあるいはアカコッコマダニであった（表）。

地点 A では、人嗜好性があり JSF 及び SFTS を媒介するといわれているキチマダニが優占種となった。これまでの同地点での調査では捕獲数は少ないものの多種のマダニ類が捕獲されていたが、今年度の調査ではアカコッコマダニ、キチマダニ及びフタトゲチマダニの 2 属 3 種の捕獲であった。マダニの生息数及び分布相は宿主となる野生動物の影響を受けると言われる。当地点は、市内でも規模の大きい公園であるが、市街中心部に比較的近く野生動物の生息及び種類数は多くないことから、自然林は残っているがマダニの生息数及び分布相として豊かではないと考えられる。

地点 B では、これまでの同地点での調査から多種のマダニ類が捕獲されていたが、今年度の調査においても地点別で最も多いアカコッコマダニ、キチマダニ、タカサゴチマダニ、ヤマアラシチマダニ、オオトゲチマダニ及びタカサゴキララマダニの 3 属 6 種が捕獲された。優占種はキチマダニであったが、JSF を媒介するといわれているヤマアラシチマダニが他地点に比べ多数捕獲された。また、人嗜好性が強く SFTS を媒介するといわれているタカサゴキララマダニも唯一捕獲された。市外の山林との連続性が保たれている当地点は、イノシシ等の目撃情報もあり大型ほ乳類を含む野生動物の生息域となっていることから、マダニの分布相としても豊かなものとなっていることが確認された。

地点 C では、アカコッコマダニ、キチマダニ及びフタトゲチマダニの 2 属 3 種が捕獲された。晩秋から春にかけて活動的になるアカコッコマダニが多数捕獲された。アカコッコ

マダニは鳥類への嗜好性が強く、人への嗜好性は強くないが一定の注意は必要である。当地点は、規模の大きい公園で、自然林が広がっており野鳥の生息域にはなっているが、ほ乳類の生息は少ないため、地点 A と同様にマダニ分布相として豊かではないと考えられる。

地点 D では、キチマダニ、タカサゴチマダニ及びフタトゲチマダニの 1 属 3 種が捕獲された。キチマダニが全地点の中で最も多く捕獲され、全体の捕獲数が最も多い地点となった。また、夏季に活発に活動するフタトゲチマダニが多数捕獲された。当地点は中規模の公園であるが、毎年フタトゲチマダニが捕獲されており、フタトゲチマダニの経年の生活環が出来上がっていると考えられる。フタトゲチマダニは人嗜好性が強く SFTS 及び JSF を媒介するといわれているので注意が必要である。調査中にタヌキやネコ等の中型ほ乳類の生息も確認されており、フタトゲチマダニの生息並びにキチマダニが多数捕獲されるのもその影響と考えられる。

地点 E では、キチマダニ、タカサゴチマダニ、ヤマアラシチマダニ及びオオトゲチマダニの 1 属 4 種が捕獲された。キチマダニ以外は各々1 頭のみの捕獲であった。当地点は、比較的規模の大きい起伏のある雑木林であるが、野生動物の生息も少ないことから、捕獲数が最も少なくなったものと思われる。地点 E は、調査開始初年度であったものの調査が休止がしたこともあり、今後 1 年を通した調査が望まれる。

全体として、今回の調査から、市内の公園等ではキチマダニが最普遍種として生息していると考えられるが、公園等の多くは周囲を住宅地等で囲まれており、野生動物の外部からの流入も限られているため、マダニの生息数及び種類も少ない傾向にあると考えられる。しかしながら、市外の山林や緑地とつながっている公園等では野生動物の生息域となっている可能性があるため、多種のマダニが多く生息しているものと考えられる。また、野生動物及び野鳥の影響を受けている一部の公園等では、その生物を宿主としたマダニが増加する傾向があることが確認された。

表　調査地点別のマダニ捕獲数

地点	調査回数	捕獲種							捕獲数
		アカコッコマダニ	キチマダニ	タカサゴチマダニ	ヤマアラシチマダニ	フタトゲチマダニ	オオトゲチマダニ	タカサゴキララマダニ	
A	8	2 (–)	9 (4)		–	1 (–)	–	–	12 (4)
B	8	1 (–)	47 (10)	4 (–)	15 (15)		2 (–)	1 (1)	70 (26)
C	8	385 (3)	8 (5)		–	2 (1)	–	–	395 (9)
D	8		437 (36)	1 (1)	–	13 (11)	–	–	451 (48)
E	8	–	5 (2)	1 (1)	1 (1)		1 (–)	–	8 (3)
合計	40	388 (3)	506 (57)	6 (1)	16 (16)	16 (12)	3 (–)	1 (1)	936 (90)

（　）：成虫の捕獲数の再掲

(ｲ) 月別のマダニ捕獲数及び種類について

令和 3 年度の月別のマダニ捕獲数を示した（図 2）。キチマダニは全調査期間で捕獲された。フタトゲチマダニ及びヤマアラシチマダニは夏季を主にして 5 月から 10 月にかけて捕獲された。アカコッコマダニは 12 月及び 1 月の冬季を中心に捕獲され、6 月から 10 月には捕獲されなかった。全体の捕獲数は 7 月、12 月及び 1 月に多くなったが、いずれも幼虫

が大量に捕獲されたためで、7 月はキチマダニ、12 月及び 1 月はアカコッコマダニの幼虫の集団捕獲が影響している。

次に、令和 3 年度の成虫のみの月別のマダニ捕獲数を示した（図 3）。キチマダニは 8 月以外の全期間で捕獲され、秋から冬季に多数捕獲される傾向にあった。フタトゲチマダニは 7 月を中心に捕獲された。ヤマアラシチマダニは春から夏季を中心にすべて成虫で捕獲されたが、10 月にも 1 頭が捕獲された。これまでの調査ではヤマアラシチマダニの成虫の捕獲は 4 月から 9 月までで、10 月に成虫が捕獲されたのは初めてである。ヤマアラシチマダニは南方系の種であり、宿主となる野生動物との関係もあるが、昨今の地球温暖化の影響により生息活動期間が長くなっているとも考えられるので今後も注視していく必要がある。

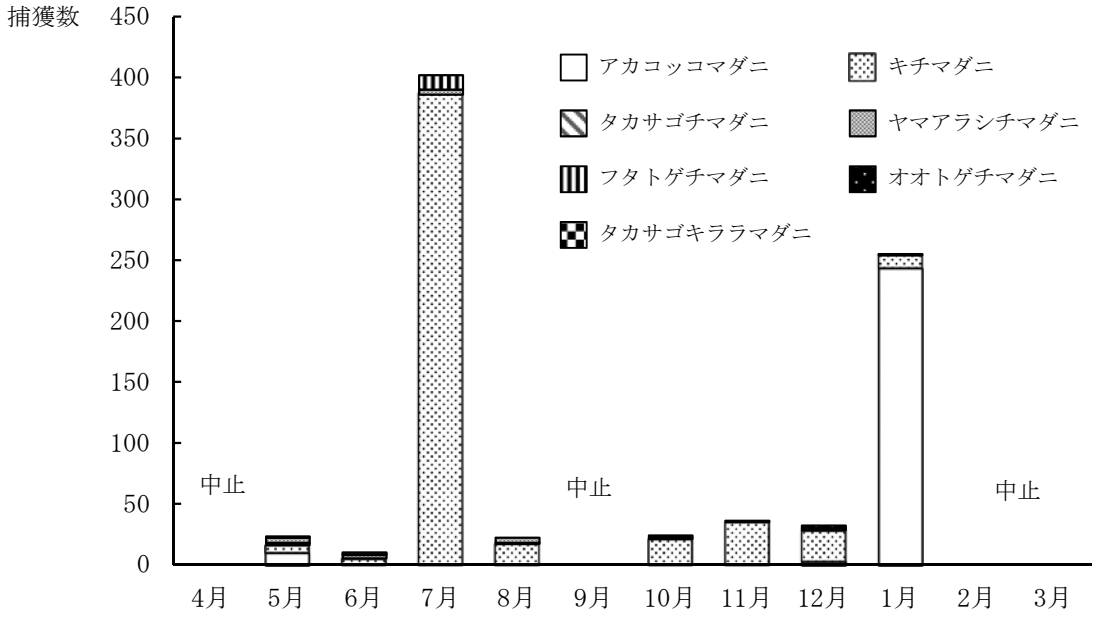


図 2　令和 3 年度マダニの種別捕獲数（成虫・若虫・幼虫の合計）

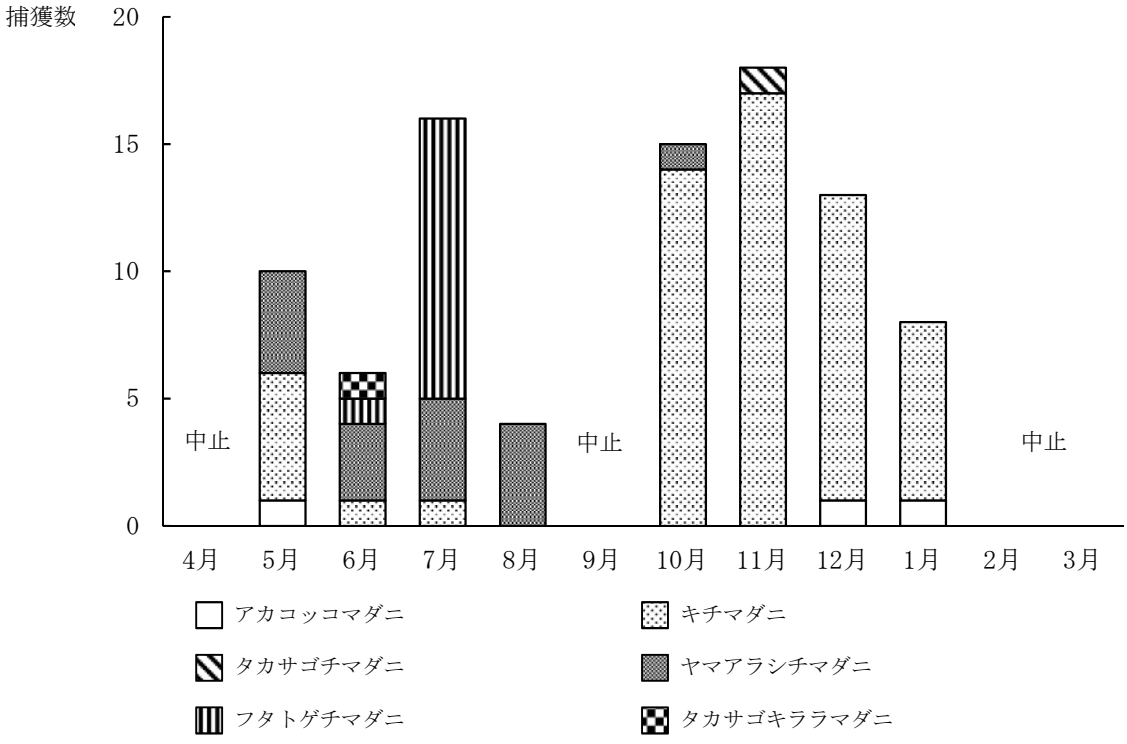


図 3　令和 3 年度マダニの種別捕獲数（成虫のみ）

(3) スズメバチ生息状況調査

ア　目的

スズメバチ類の発生動向等の資料とするために市内の公園及び緑地にてスズメバチ生息状況調査を行い、結果を名古屋市公式ホームページ等に掲載して刺傷被害防止の啓発活動等に活用する。

イ　調査期間

令和3年4月から令和3年11月

（新型コロナウイルス感染症対策業務への対応のため、当初予定の4月開始のところ5月3週目より開始した。また、9月2週目から10月1週目までは調査を中止した。）

ウ　調査地点

新型コロナウイルス感染症対策業務への対応のため例年より調査地点を減らし、中区、中川区、緑区、名東区の計4区各1地点で実施した。

エ　調査方法

発酵糖液（乳酸飲料：水＝6：4 に希釈したもの 600mL）を誘引剤に用いたファネルトラップを地上より 2～3m の高さに各調査地点で2か所設置し、週1回誘引剤を交換し、捕獲されたハチの種類や数等を調査した。

また、管理者より報告があった調査公園内等に営巣したスズメバチ類の巣については、営巣状況や巣内の状況を把握する営巣調査を実施した。

オ　結果および考察

(ｱ) スズメバチ類の区別、種類別捕獲数

表1に捕獲したスズメバチ類について区別、種類別の捕獲状況を示す。調査期間中に4地点で捕獲されたスズメバチ類は、7種類、合計1,901匹であった。そのうち最も多かったのはモンスズメバチ(以下モンと略し、以降同様に略す)761匹、次いでオオスズメバチ(オオ)551匹、コガタスズメバチ(コガタ)449匹、ヒメスズメバチ(ヒメ)101匹、クロスズメバチ(クロ)27匹、キイロスズメバチ(キイロ)10匹、チャイロスズメバチ(チャイロ)2匹と続いた。以降の表やグラフでは、クロ、チャイロ、キイロは捕獲数が少ないため、その他にまとめた。

コガタの捕獲数は緑区、名東区において多かったが、中区、中川区でも他種と比較して多く捕獲されていることから市街地でも適応できていると考えられる。

オオとモンの捕獲数は緑区、名東区が多く中区、中川区の市街地近辺ではあまり捕獲されなかった。オオは地中や樹洞での営巣が多く、自然度の高い東部丘陵地（緑区、名東区）で生息数が多いと考えられる。

ヒメはモン、オオと同様に緑区と名東区で捕獲数が多かった。ヒメの巣は小さいこともあり捕獲数はコガタ、オオ、モンとは大きく離れている。

ヒメの区ごとの捕獲数の違いは餌であるアシナガバチの生息状況に連動していると考えられる。

キイロは名古屋市での捕獲数は例年少ない。誘引剤の嗜好性はあるかもしれないが、巣一つ当たりの営巣規模は他の種より大きいことを考慮すると、東京や大阪などの他都市と比べて生息分布は小さいと考えられる。本年度は中区でしか捕獲されなかった。

営巣調査は緑区で2件(コガタスズメバチ1件、モンスズメバチ1件)、守山区でコガタスズメバチ2件、中区でオオスズメバチ1件、港区でコガタスズメバチ1件行った。

表1　区別、種類別捕獲数

区	コガタ	キイロ	ヒメ	モン	オオ	チャイロ	クロ	合計
中区	100	10	1	2	8	0	0	121
中川区	77	0	7	1	20	1	0	106
緑区	139	0	66	335	214	1	8	763
名東区	133	0	27	423	309	0	19	911
合計	449	10	101	761	551	2	27	1,901

(ｲ)　4区全体の種類別捕獲数の季節変化

4区全体での種類別の捕獲数の季節変化を図1に示す。例年9月が最も多く捕獲されるが、今年度は調査を中止しているため、参考までに昨年の結果を図2に示す。

コガタは8月第1週以降捕獲数の増加が見られ、例年どおりであれば9月に最盛期を迎えたと考えられる。調査再開後も11月1週まで他のスズメバチ類と比べて比較的多く捕獲されたが、コガタは国内で最も広範に分布する種で、市街地での適応能力が高いためと考えられる。

ヒメについても8月頃から捕獲数の増加が見られ、例年どおりであれば9月に最盛期を迎えたと考えられる。調査再開後は捕獲数が減少し、10月第5週以降は捕獲されなかったが、ヒメは最も営巣期間が短い種であるためと考えられる。

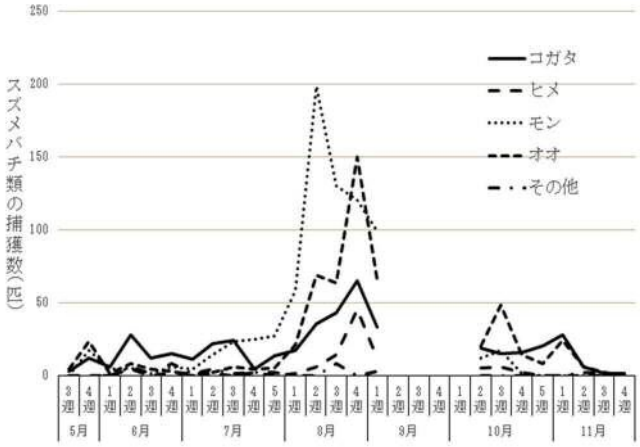


図1　令和3年度種類別の捕獲数の季節変化（4区合計）

モンは8月2～4週に例年よりも多く捕獲された。調査再開後は捕獲数が減少し、10月第5週以降は捕獲されなかった。モンはセミを狩る習性があり、セミの生息状況に連動している可能性もある。

オオは7月まで捕獲数が横ばい傾向であったが、8月1週以降捕獲数の増加が見られ、例年どおりであれば9月に最盛期を迎えたと考えられる。調査開始後は、多少増減しながら捕獲数は下降していったが、11月1週まで他のスズメバチ類と比べて比較的多く捕獲された。オオは昆虫の少なくなる秋頃には他のスズメバチを襲うため、より長く生存できる可能性がある。

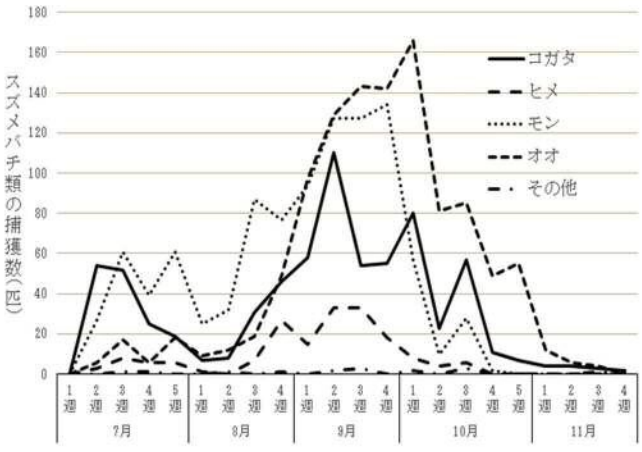


図2　令和2年度種類別の捕獲数の季節変化
（4区合計、令和2年度は5、6月は実施なし）

(ｳ)　4区全体の女王バチ、オスバチの捕獲数の季節変化

4区全体での女王バチおよびオスバチの捕獲数の時期ごとの推移を図3、図4に示す。

例年、女王バチは活動を始める4月～6月に主に捕獲されており、今年度も同様の傾向であった。ただし、7月にも数匹女王バチは捕獲されており、活動時期が遅いものが見受けられた。

新女王バチの捕獲が11月第2週にオオで見られた。越冬前に樹液等で栄養を取ることは少ないと考えられるが、交尾ができなかった個体が生体維持の為に採餌行動を取ったと考えられる。

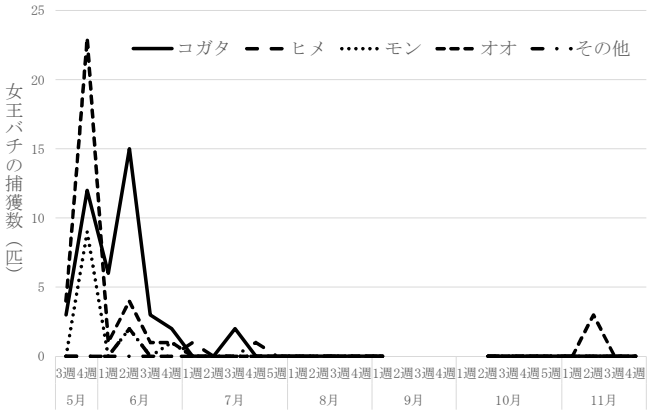


図3　種類別の女王バチの捕獲数の季節変化（4区合計）

オスバチは7月中にも若干数捕獲されたが、8月後半から捕獲数が増え始めた。これはこの時期よりオスバチが羽化するためと考えられる。

オオ・コガタのオスは8月後半から11月前半まで捕獲されており、繁殖活動の時期が長いと考えられる。両種のオスの捕獲数の差は、オオは巣の近くで交尾を行うが、コガタは高木や訪花場所で交尾を行うのでトラップに近づくためと考えられる。

ヒメ・モンのオスは8月後半に多く捕獲されはじめ､調査再開後10月2週以降は捕獲されなかった。これは、両種のオスは8～9月に羽化するが、繋殖活動期間が短いためと考えられる。

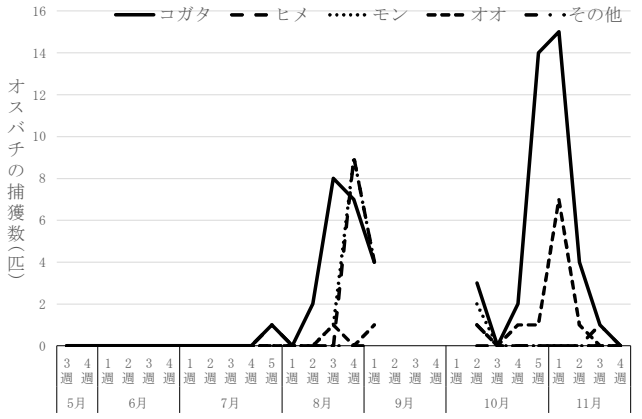


図4　種類別のオスバチの捕獲数の季節変化（4区合計）

名古屋市保健所
感染症対策・調査センターの活動（業務課）（令和３年度）

発　　行　〒463-8585
名古屋市守山区桜坂四丁目 207 番地
名古屋市保健所 感染症対策・調査センター
TEL 052-737-3712 / FAX 052-736-1102
編　　集　感染症対策・調査センター 事業係
発 行 日　令和４年 12 月
発行部数　250 部
印　　刷　社会福祉法人　名古屋ライトハウス明和寮
（年刊・無料・特定配布）

この冊子は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。